

# 先週の回答



そろそろ西の空も暮れかけている。本所深川材木町の裏店「かかし長屋」の井戸端で権六が一人で米をといでいる。権六は一人暮らしだから米を三合も炊けば明日の朝の分にも十分。七輪を団扇で扇いで、釜をのせようとしたとき、後ろから女の子が声をかけた。  
 「おじちゃん、あたいを拐かして」  
 権六の団扇が止まる。  
 この辺では見かけない顔の女の子だ。年は十歳くらいか。着ている物は上等だから長屋の子ではない。  
 権六は返事のかわりに「あん？」と言った。  
 利発そうなその子はニッコリ笑って、繰り返した。

「あたいを拐かして、おじちゃん」  
 「拐かす？ おんぶするとか、だっこするとかじゃなくて？」  
 「拐かすのよ、さらうのよ、あたいを」  
 「何で？」  
 本所深川で一、二を争う呉服問屋の老舗「越屋」に投げ込まれた投げ文には、「子どもはあずかった。返してほしかったら三百両用意しろ。番屋に届けたら娘花子の命はないぞ」と、あった。  
 ずらっと並んだ子どもたち。上から太郎、小太郎、たえ、くみ、三太郎、安之助、きわ……。ほとんど年子で二十四人が並んで自分の名前を名乗った。「たしか、二十五人だったはずだが」と松之助。

「そうだったかしら」と杉乃。吉之介が、「オレのすぐ下の妹だよ」。おしまが、「あたしのすぐ上の姉さんよ」と言った。「ま、これだけいるんだから一人ぐらい・・・」  
 「そうですねえ」と、老舗の主夫妻頷き合う。  
 次の日、かかし長屋の権六の土間に投げ文「好きにしてください」とあった。「あたし試してみたのよ」と花子、憤怒の顔。「やっぱり思ったとおりだ。こんな親ってあるウ！無計画にこさえやがって」と権六に喰ってかかった。  
 「あつしは何とも」と権六も困り果てた。



# 今週の問題



□の中に漢字を埋めて  
四字熟語を完成させてください。